

令和6年度衣類バンク事業連絡会議

実施日	令和6年11月27日(水) Zoomによるオンライン
参加者	42名 (衣類バンク実施施設長・担当者、市町村社協、推進協会 会員施設で衣類バンク未実施施設)
実践報告者	①鴻巣市社会福祉協議会 中山氏 ②社会福祉法人成恵福祉会 寺谷保育園 齋藤氏



当日のオンラインの様子

内容

8月に鴻巣市社会福祉協議会と衣類バンク事業が協働し、「夏のボランティア体験 in 鴻巣 2024」での衣類収集・仕分けボランティアを実施したことについて、鴻巣市社協中山氏と、衣類バンク実施施設の寺谷保育園 齋藤氏より、取組について実践報告をいただいた。

グループワークでは、各施設での衣類収集方法やその効果、近隣の施設・社協と協働した周知・衣類収集方法について、意見交換を行うことで情報を共有した。

【鴻巣市社協 中山氏のお話】

夏ボラは、地域のボランティアグループを知ってもらい、交流の機会となるため、衣類の寄付と併せて、実施施設が行っている衣類の仕分け作業を行うボランティアを募るメニューを提案した。実際メニュー化し実践してみて、参加希望者が定員数より多かったことや、参加者からの感想などから、今後の参考にもなった。

参加者からは「誰かのために役立てた」ことの喜びを感じたが、こういった想いは身近な家族や友人にも伝わっていくことと思う。今後もメニューとすることで、寺谷保育園や福祉施設が行う衣類バンク事業が、地域との関わりにより“支援機関”となっていることを、こども達を知るきっかけになっていくとよいと思う。

【寺谷保育園 齋藤氏のお話】

4名の中学生と作業を行った。仕分け作業で苦戦していた参加者も、作業を続けていくにつれ慣れてきて、衣類を畳んで袋詰めする頃には自分達が仕分けた衣類が誰かの支援につながる実感が湧いてきたようだった。間接的に子育て世帯の支援につながっていることを実感してもらえたと思う。ボランティア体験終了後は園内の見学を行い、保育園の日常生活等の様子を参加者に知ってもらえるよい機会となった。

参加者の中に卒園児もいたことから、懐かしい再会をともに、こども達の成長後の姿が見られてとてもよかった。次年度も参加者数を増やして、社会貢献活動や次世代育成支援のさらなる推進を目標に実施していきたい。

参加者の声

- ・実例を通して、市社協と取り組めそうな魅力である、と感じた。ボランティア受け入れを通して、衣類バンク事業を紹介できたことは素敵な報告であったと思う。
- ・衣類の仕分け、梱包を含めた作業をボランティアの方々にお手伝いをいただくことはとても効率よく一連の作業を行うことができ且つ取組の理解と取り組んでいただける方々を増やすことへも繋がっていくことに気づかせていただいた。
- ・夏ボラでのボランティアの受け入れについて、実際のところをお聞きでき、保育園での受け入れについてイメージができた。実施に向け検討したいと思う。